

CI-NET[®] LiteS

実装規約

Ver.2.1 ad.8

(基本契約メッセージ案抜粋)

発行

一般財団法人 建設業振興基金

建設産業情報化推進センター

目 次

X. 基本契約メッセージ	3
1. データ交換手順.....	2
1.1. 通常のデータ交換手順.....	2
2. メッセージ.....	4
2.1. メッセージのキー項目	4
2.2. メッセージの使用データ項目	8
2.3. データ項目定義と運用の詳細.....	9

B.情報表現規約

X. 基本契約メッセージ

X. 基本契約メッセージ

■本編の構成

1. データ交換手順

基本契約業務のデータ交換手順を説明する。

基本契約申込メッセージとそれに対応する基本契約承諾メッセージを相互に交換することによって基本契約が成立することを基本ルールとする。

2. メッセージ

メッセージで使用するデータ項目を説明する。

1. データ交換手順

1.1. 通常のデータ交換手順

・CI-NET LiteS による基本契約業務では、発注者が受注希望者（以下「受注者」という。）に対して「基本契約申込メッセージ」によって基本契約の申込を通知し、受注者がこれを受諾する旨を「基本契約承諾メッセージ」によって通知することによって基本契約が成立する。

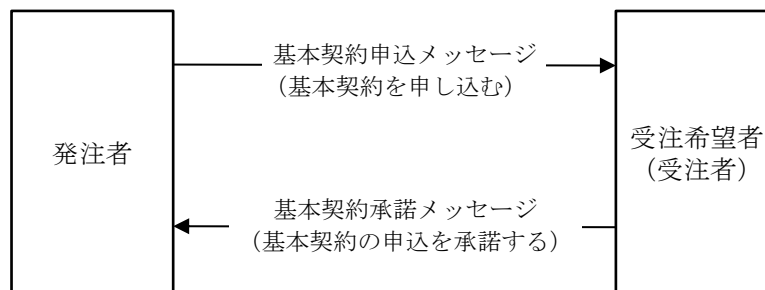


図 B.X-1 基本契約業務 EDI のデータ交換手順

・基本契約承諾メッセージでは、基本契約申込メッセージと共通するデータ項目については、以下の項目を除き、原則として基本契約申込メッセージに記載された値と同一内容を記載する。明細情報部分も、原則として基本契約申込メッセージの記載内容を変更しない。下記のデータ項目以外に変更がある場合は、基本契約申込メッセージの内容と異なる条件での受諾意思表示と解釈される。

【基本契約承諾メッセージにおいて、基本契約申込メッセージの値と異なってもよいデータ項目】

全体情報部分（鑑）

[1]データ処理 No.	※.
[2]情報区分コード	※
[3]データ作成日	※
[1197]サブセット・バージョン	※
[1007]帳票 No.	※
[1008]帳票年月日	※
[1009]参照帳票 No.	※
[1010]参照帳票年月日	※
[1009]参照帳票 No.2	※
[1015]受注者代表者氏名	

[1017]受注者担当部署名
[1018]受注者担当者名
[1019]受注者担当郵便番号
[1020]受注者担当住所
[1021]受注者担当電話番号
[1022]受注者担当 FAX 番号
[1165]受注者決裁者名
[1014]送り状案内
[1179]帳票データチェック値 ※

上記のうち「※」のデータ項目の記載内容は、本資料において定めるルールに従う。

2. メッセージ

2.1. メッセージのキー項目

発注者、受注者が送信、受信したメッセージを特定するために、以下の各レベルをメッセージ上に表現することが必要である。ここでは、各レベルの特定に使用するデータ項目を説明する。

- －取引（基本契約）
- －帳票種類
- －同一帳票を複数回送信した場合の識別

(1) 取引を特定するデータ項目

取引関係を特定するデータ項目は下表の通り。

これらのデータ項目により、

- ・どの発注者が： [4]発注者コード
- ・どの基本契約を： [1007]帳票 No.
あるいは
[1009]参照帳票 No.
- ・どの受注者と契約したものか： [5]受注者コード

を表す。

表 B.X- 1 取引を特定するデータ項目

メッセージ、機能	取引を特定する データ項目	データ項目の内容
基本契約申込	[4]発注者コード [5]受注者コード [1007]帳票 No.	・[1007]帳票 No.には、発注者が採番する基本契約の管理番号を記載する。
基本契約承諾	[4]発注者コード [5]受注者コード [1009]参照帳票 No.	・[1009]参照帳票 No.には、発注者が採番して受注者に通知した基本契約の管理番号を記載する。この値は、対応する基本契約申込メッセージの[1007]帳票 No.の値と同一である（次図参照）。

表 B.X-2 [1007]帳票 No.、[1009]参照帳票 No.等の記載方法

メッセージ	[1007] 帳票 No.	[1008] 帳票年月日	[1009] 参照帳票 No.	[1010] 参照帳票年 月日	[1302] 基本契約番号
基本契約申込	*基本契約申 込の管理番号	基本契約を申し 込んだ年月日	—	—	基本契約申込 の管理番号
基本契約承諾	基本契約承諾 の管理番号	基本契約を承諾 した年月日	*基本契約 申込の管理 番号	基本契約を 申し込んだ 年月日	基本契約申込 の管理番号

【注】「*」は取引を特定するキー項目。

【注】太枠 は、受注者が発番する番号、年月日。それ以外は発注者が発番する番号、年月日。

なお、基本契約申込の管理番号について、確定注文／注文請けメッセージでは以下の通り記載する。

表 B.X-3 [1007]帳票 No.、[1009]参照帳票 No.等の記載方法

メッセージ	[1007] 帳票 No.	[1008] 帳票年月日	[1009] 参照帳票 No.	[1301] 参照帳票 No.2	[1302] 基本契約番号	[1079] 基本契約日
確定注文	注文番号	注文を申し込 んだ年月日	—	見積依頼番 号	基本契約申込 の[1302]基本 契約番号	基本契約を 締結した日
注文請け	請書番号	注文を請けた 年月日	注文番号	見積依頼番 号	基本契約申込 の[1302]基本 契約番号	基本契約を 締結した日

(2) 同一取引における帳票種類(基本契約申込または基本契約承諾)を区分するデータ項目

上記(1)で特定される取引において、帳票種類(基本契約申込、基本契約承諾)の識別は[2]情報区分コードにより行う。

表 B.X-4 [2]情報区分コードによる帳票種類の識別

帳票種類	[2]情報区分コード
基本契約申込	0521
基本契約承諾	0522

(3) 同一取引、同一帳票種類における複数のメッセージを識別するデータ項目

上記(1)および(2)で特定される取引、帳票種類において複数のメッセージが交換される場合（基本契約申込内容を訂正したうえでの再送信、未達時の再発行等を想定）、それらの識別は[1]データ処理 No.により行う。

基本契約申込、基本契約承諾について、以下に例を示して説明する。

表 B.VI- 1 [1]データ処理 No.によるメッセージの識別:基本契約申込、基本契約承諾における例

	基本契約申込	基本契約承諾
取引	[4]発注者コード ○○建設 [1007]帳票 No. 工種□□ [5]受注者コード △△工業	[4]発注者コード ○○建設 [1009]参照帳票 No. 工種□□ [5]受注者コード △△工業
帳票	[2]情報区分コード 基本契約申込	[2]情報区分コード 基本契約承諾
回数	<div> <div>[1]=1 申込 1 回目 ➡</div> <div>←</div> <div>[1]=2 申込 2 回目 ➡</div> <div>←</div> <div>[1]=3 申込 3 回目 ➡</div> <div>←</div> <div>←</div> </div>	<div> <div>[1179]=1 申込 1 回目 [1]=1 承諾 1 回目</div> <div>[1179]=1 申込 1 回目 [1]=2 承諾 2 回目</div> <div>[1179]=2 申込 2 回目 [1]=1 承諾 1 回目</div> <div>[1179]=3 申込 3 回目 [1]=1 承諾 1 回目</div> <div>[1179]=3 申込 3 回目 [1]=2 承諾 1 回目</div> </div>

基本契約承諾では、[1179]帳票データチェック値の繰り返し 1 回目に、対応する基本契約申込メッセージの[1]データ処理 No.を記載。

[1179]と[1]との組合せで、「何回目の申込に対する何回目の承諾か」を特定。

申込回数が変わったら、[1]の承諾回数は 1 に戻す。

このデータ項目は、以下のようなケースでのメッセージ管理に利用されることを想定している。

同一基本契約に関する基本契約申込メッセージが複数送信され、それらに対して基本契約承諾メッセージが返信された場合を想定する。発注者では、受信した基本契約承諾メッセージがどの基本契約申込に対応するものかを識別する必要がある。この識別は、[1179]帳票データチェック値により行う。

■基本契約申込メッセージ

- ・基本契約申込メッセージの[4]発注者コード、[1006]工事コード、[1007]帳票 No.、[1300]注文番号枝番、[5]受注者コード、[2]情報区分コードが同一のメッセージを複数送信する場合、何回目のメッセージであるかがわかるように[1]データ処理 No.で全てのメッセージをユニークに識別する。
- ・[1]データ処理 No.は、昇順の自然数（1、2、3、・・・）とする。

■基本契約承諾メッセージ

- ・基本契約承諾メッセージの[4]発注者コード、[1009]参照帳票 No.、[5]受注者コード、[2]情報区分コード、[1179]帳票データチェック値の 1 回目が同一のメッセージを複数送信する場合、何回目のメッセージであるかがわかるように[1]データ処理 No.で全てのメッセージをユニークに識別する。
- ・[1]データ処理 No.は、各基本契約申込メッセージに対して 1 から始まる連番とする。

【注意事項】

- ・[1]データ処理 No.は、交換するメッセージ全てをユニークに識別できなければならない。このため、例えば未達のために内容を全く変更せずに再送する場合にも、[1]の値は必ず前回送信したメッセージより大きい値としなければならない。

2.2. メッセージの使用データ項目

メッセージごとの使用データ項目は、「B.IX. メッセージごとの使用データ項目」に示す。

2.3. データ項目定義と運用の詳細

各メッセージで使用するデータ項目を説明する。

以降において、四角囲みは CI-NET 標準 BP における定義であり、これと異なる運用をする場合、あるいは特に注記が必要な場合にコメントを記している。

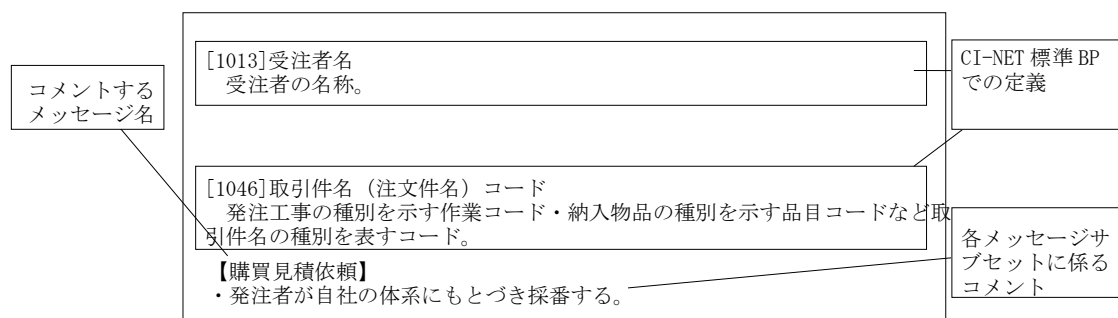


図 B.X-2 記載例

(1) 全体情報部分(鑑)のデータ項目

1) メッセージ管理のためのデータ項目

[1]データ処理No.

受信者での受信データの処理順序を示す番号。受信者は、受信データをこの番号の昇順に処理すること。

【基本契約申込】

- ・以下のデータ項目の値が同一のメッセージを複数送信する場合、本データ項目によって識別する。
 - [4]発注者コード
 - [1007]帳票 No.
 - [5]受注者コード
 - [2]情報区分コード
- ・昇順の自然数とする。
- ・送信の都度、内容変更等なくとも、カウント・アップする。

【基本契約承諾】

- ・以下のデータ項目の値が同一のメッセージを複数送信する場合、本データ項目によって識別する。
 - [4]発注者コード
 - [1009]参照帳票 No.
 - [5]受注者コード
 - [2]情報区分コード
 - [1179]帳票データチェック値のマルチ 1 回目¹
- ・上記の項目の組合せが異なるごとに、1 から開始する連番とする。
- ・送信の都度、内容変更等なくとも、カウント・アップする。
- ・具体例は、「2.1(3) 同一取引、同一帳票種類における複数のメッセージを識別するデータ項目」を参照。

¹ 基本契約承諾メッセージの[1179]帳票データチェック値マルチ 1 回目には、対応する基本契約申込メッセージの[1]データ処理 No.の値を記載する。

[2]情報区分コード

情報の種類を示すコード。

- ・次表に従う。

表 B.X-5 情報区分コード

メッセージ、機能の種類	[2]情報区分コード
基本契約申込	0521
基本契約承諾	0522

[3]データ作成日

メッセージデータを作成した年月日。

【例】20000427

[4]発注者コード

注文を行う側の企業およびその事業所・担当部署・作業所などを示す標準企業コード。

[5]受注者コード

注文を受ける側の企業およびその事業所・担当部署・作業所などを示す標準企業コード。

[1308]発注者法人番号・事業所コード

注文を発する側の企業などを示す「法人番号」と事業所コードで構成されるコード。

[1307]受注者法人番号・事業所コード

注文を受ける側の企業などを示す「法人番号」と事業所コードで構成されるコード。

- ・バイト数は、「JCN」+法人番号(13桁)+事業所コード(6桁)の計 22 桁とする。

(注 1)「JCN」は日本電子認証株式会社の定める国コード。

(注 2)「法人番号」は「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づき、法人に対して指定された 13 桁(チェックデジットを含む)の番号。

(注 3)「事業所コード」は CI-NET の独自コード。

[1197]サブセット・バージョン

メッセージサブセットの版。

- ・次表に従う。

表 B.X-6 サブセット・バージョン

メッセージ、機能の種類	[1197]サブセット・バージョン
基本契約申込	BSCORD02.00
基本契約承諾	BSCRSP02.00

[9]訂正コード

情報の新規・一括変更・全文取消・一部変更を示すコード。

【基本契約申込、基本契約承諾】

- ・「1」固定とする。

[1006]工事コード

工事場所、受渡し場所、原価管理上の区分などを示すコード。

- ・発注者が発番した、発注者側の工事物件管理コードを記載する。
- ・基本契約承諾メッセージでは、対応する基本契約申込メッセージの値を変更せず送信する。

[1007]帳票 No.

帳票の番号。

- ・「表 B.X-2 [1007]帳票 No.、[1009]参照帳票 No.等の記載方法」を参照のこと。

【基本契約申込】

- ・発注者が採番する基本契約を管理する番号を記載する。

【基本契約承諾】

- ・受注者が採番する基本契約を管理する番号を記載する。

[1008]帳票年月日

帳票に記載する年月日。例として、見積依頼メッセージにおいては見積を依頼した年月日を、見積回答メッセージにおいては見積を回答した年月日を表す。

- ・「表 B.X-2 [1007]帳票 No.、[1009]参照帳票 No.等の記載方法」を参照のこと。

【基本契約申込】

- ・発注者が基本契約申込を申し込んだ年月日を記載する。

【基本契約承諾】

- ・受注者が基本契約申込を承諾した年月日を記載する。

[1009]参照帳票 No.

注文番号・契約番号など、取引を特定するための参照帳票の番号。

【基本契約承諾】

- ・発注者が採番した基本契約の管理番号を記載する。この値は、対応する申込メッセージの[1007]帳票 No.の値と同一でなければならない。
- ・「表 B.X-2 [1007]帳票 No.、[1009]参照帳票 No.等の記載方法」を参照のこと。

[1010]参照帳票年月日

注文番号・契約番号など、取引を特定するための参照帳票に記載された年月日。

【基本契約承諾】

- ・発注者が対応する申込メッセージを発行した年月日を記載する。この値は、対応する申込メッセージの[1008]帳票年月日の値と同一でなければならない。

- ・「表 B.X-2 [1007]帳票 No.、[1009]参照帳票 No.等の記載方法」を参照のこと。

2) 発注者の内部管理データ項目

[1023]受注者コード 2(発注者採番)

発注者が定めた受注者の識別コード。

[1046]取引件名(注文件名)コード

発注工事の種別を示す作業コード・納入物品の種別を示す品目コードなど取引件名の種別を表すコード。

【基本契約申込】

- ・当該基本契約の対象とする工事の種別(例: 工事下請負基本契約、物品売買基本契約、警備業務基本契約)などを表すコード。
- ・発注者が自社の体系にもとづき採番する。

3) 契約内容を表すデータ項目

[1013]受注者名

受注者の名称。

【例】 振興建設株式会社

[1388]受注者代表者役職名

受注者のメッセージデータに対する代表者の役職名。

【例】 代表取締役社長

[1015]受注者代表者氏名

受注者の代表者の氏名。

【例】 振興 太郎

[1017]受注者担当部署名

受注者の事業所・担当部署・作業所などの名称。

【例】 東京支社営業部第一営業課

[1018]受注者担当者名

受注者の担当者の氏名。

【例】 振興太郎

[1019]受注者担当郵便番号

受注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の郵便番号。

【例】 105-0001
1050001

[1020]受注者担当住所

受注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の住所。

【例】 東京都港区虎ノ門4-2-12 虎ノ門4丁目MTビル2号館

[1021]受注者担当電話番号

受注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の電話番号。(市外局番を含む)

【例】 0354734573
03-5473-4573
03(5473)4573

[1022]受注者担当 FAX 番号

受注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の F A X 番号。(市外局番を含む)

【例】 0354734580
03-5473-4580
03(5473)4580

[1165]受注者決裁者名

受注者のメッセージデータに対する決裁者の氏名。

【例】 振興太郎

[1386]受注者決裁者役職名

受注者のメッセージデータに対する決裁者の役職名。

【例】 建築部長

[1024]発注者名

発注者の名称。

【例】 振興建設株式会社

[1389]発注者代表者役職名

発注者のメッセージデータに対する代表者の役職名。

【例】 代表取締役社長

[1026]発注者代表者氏名

発注者の代表者の氏名。

【例】 振興太郎

[1028]発注者担当部署名

発注者の事業所・担当部署・作業所などの名称。

[1029]発注者担当者名

発注者の担当者の氏名。

[1030]発注者担当郵便番号

発注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の郵便番号。

[1031]発注者担当住所

発注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の住所。

[1032]発注者担当電話番号

発注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用の電話番号。(市外局番を含む)

[1033]発注者担当 F A X 番号

発注者の事業所・担当部署・作業所などの連絡用 F A X 番号。(市外局番を含む)

[1387]発注者決裁者役職名

発注者のメッセージデータに対する決裁者の役職名。

【例】 建築部長

[1169]発注者決裁者名

発注者のメッセージデータに対する決裁者の氏名。

【例】 振興太郎

[1045]取引件名（注文件名）

発注工事の名称・納入物品の名称など取引の名称。

【例】 工事下請負基本契約、物品売買基本契約、警備業務基本契約

[1302]基本契約番号

基本契約の契約番号。

- ・ 1 バイト(半角)文字、2 バイト(全角)文字混在可とする。

【基本契約申込】

- ・ 発注者が採番する基本契約を管理する番号を記載する。

【基本契約承諾】

- ・ 対応する基本契約申込メッセージの値を変更せず送信する。

[1014]送り状案内

メッセージを送付する際の送り状。

- ・ 1 バイト(半角)文字、2 バイト(全角)文字混在可とする。

【例 1: 添付ファイルがない場合】基本契約申込の内容をご査収のうえ、合意する場合のみ、

期限内にご提出下さるようお願い致します。

【例 2：添付ファイルがある場合】本基本契約の承諾にあたっては、添付の内容を十分に確認の上、合意する場合のみ、基本契約承諾を送信願います。基本契約承諾の送信に際しては、基本契約承諾の[1014]送り状案内に、対応する基本契約申込の内容を添付も含めて熟読の上承諾することを明記してください。基本契約承諾の受信をもって、基本契約は締結され、今後、貴社と締結する該当するすべての個別契約に適用されるものとします。

4) その他

[1179]帳票データチェック値

メッセージデータの授受が正確に行われているかどうかをお互いにチェックするための項目。 例】全明細行数などをセットする。

・次表以降の通り。

表 B.X- 7 基本契約申込、基本契約承諾メッセージの[1179]帳票データチェック値

回数	基本契約申込	基本契約承諾
1	使用しない。	対応する基本契約申込メッセージの[1]データ処理 No.の値と同じ（変更せず返信）。
2	使用しない。	使用しない。
3	使用しない。	使用しない。
4	使用しない。	使用しない。
5	使用しない。	使用しない。
6	使用しない。	使用しない。
7	使用しない。	使用しない。
8	使用しない。	使用しない。
9	使用しない。	使用しない。

[1373]様式コード【新規】

画面や帳票等へ出力する際の各データ項目のレイアウトのパターンを指定する。

- ・次表以降の通り。
- ・紙媒体へ出力する際は、「電子公文書の文書型定義（DTD）」（総務省）に倣い、A4（1 頁 36 行、1 行 40 文字）、表示のフォントを 10.5 ポイントとすることが望ましい。
- ・発注者が自社フォーマット形式の参考情報をして入力する。画面や帳票等へ出力する際は、様式コードに応じたフォーマットで出力することが望ましい。
- ・様式コードは、発注者および受注者の各々が設定できる。

表 B.X- 8 [新規]様式コード

[新規]様式コード	内容
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 甲：契約申込者、乙：契約承諾者の場合。（甲：総合工事業者、乙：専門工事業者の場合を想定。） ・ 鑑なし（甲乙を最後に記載）の場合。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 甲：契約申込者、乙：契約承諾者の場合。（甲：総合工事業者、乙：専

	門工事業者の場合を想定。） ・鑑あり（本文を最後に記載）の場合。
--	-------------------------------------

(2) 明細情報部分のデータ項目

1) 明細の階層構造を表すデータ項目

[1200]明細コード

明細データを特定しデータ階層上の位置を示すコード。

基本契約メッセージ個別ルール

以下を基本契約業務のメッセージの個別ルールとする。

■階層構造表現のルール

- ・「標準 BP Ver.1.6」 p.131 「3.2.3.9 明細コード」に準拠し、4 桁ごとに階層を表す。ただし、基本契約業務では階層構造を持たないフラット構造とする。
- ・データの先頭から 4 桁ごとの数字により同一階層内の位置を表す。

■データ属性等

- ・数字のみを使用し、英文字は使用してはならない。
- ・同一階層内において、4 桁ごとの数字は昇順とする。
- ・4 桁ごとの先頭ゼロは省略してはならない。
正：0001
誤：__1 ("_"はスペースを表す)
- ・可変長であり、右側の余分な桁は記載してはならない。
正：0001
誤：0000
誤：0001____ ("_"はスペースを表す)

【注意事項】

- ・基本契約メッセージは、階層を持たないフラットな表記とする。従って、5 桁以上の数字は使用されない。

[1288]明細データ属性コード

[1200]明細コードと組み合わせて使用し、総括明細、内訳明細、見積条件などの明細データの属性を表すコード。

全メッセージ共通ルール

表 B.X-9 明細データ属性コード

明細行の種類	[1288] 明細データ属性 コード	内容
総括明細行	0	明細書帳票の上位に記載する行。
見積条件等	1	明細書において専ら見積条件等を記載する行。

見積条件行		明細書の金額計算には関係しない。
見積条件等 メーカ・リスト 行	2	明細書において専ら使用する資機材等のメーカ名を記載する行。明細書の金額計算には関係しない。
見積条件等 自由採番	3	他のいずれにも該当しない行。 明細書の金額計算には関係しない。
見積条件等 自由採番	4	同上
内訳明細行	5	明細書帳票の下位に記載する行。
本文	9	基本契約書等の本文を記載する行。
エレメント親行	E	エレメントの親行。
別紙親行	B	別紙の親行。
代価親行	Q	代価の親行。

基本契約メッセージ個別ルール

以下を基本契約業務のメッセージの個別ルールとする。

- ・「9」固定とする。([1288]=9 以外は使用しない。)

[1289]補助明細コード

[1200]明細コードおよび[1288]明細データ属性コード と組み合わせて使用し、明細データの補助的な属性を表すコード。

全メッセージ共通ルール

表 B.X- 10 補助明細コード

明細行の 種類	[1289] 補助明細コード	内容
本体行	00	<p>(定義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 種目・科目・諸経費・建設資機材等を記載する行である。 ・ この行は金額集計の対象となるため、金額・数量・単位・単価を指定しなければならない。 <p>(用法上の注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 階層下に明細データを持つことができる。 ・ 金額集計の考え方は以下の通りである。 - 1 階層下の明細データに本体行が含まれる場合には、そ

明細行の 種類	[1289] 補助明細コード	内容
		<p>れら全ての本体行の金額の総和を、当該行の金額とする</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 階層下の明細データに本体行が含まれない場合には、当該本体行に記載されている金額を、当該行の金額とする
仕様行	01～49	<p>(定義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本体行に記述しきれない仕様のみを記載する行である。 ・ この行は金額集計の対象とならない。 <p>(用法上の注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕様行は、その仕様にかかわる本体行が同一階層内に必ず出現しなくてはならない。 <p>※この本体行と仕様行は同一の[1200]明細コードを付与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同一の本体行の仕様を連続する複数行にわたって記載する場合、[1289]補助明細コードは 01、02、03...という連番とすること。最大 49 行まで記載可能。連続しない場合は 01 とする。 ・ 1 階層下に明細データを持つことはできない。
計行	90	<p>(定義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金額の小計を記載する行である。 ・ この行は金額集計の対象とならない。 <p>(用法上の注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 階層下に明細データを持つことはできない。
コメント 行	80	<p>(定義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記のいずれにも該当しないコメントを記載する行。 ・ この行は金額集計の対象とならない。 <p>(用法上の注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 階層下に明細データを持つことができる。
本文行	81	<p>(定義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約款等の内容を記載する行。 ・ この行は金額集計の対象とならない。

明細行の 種類	[1289] 補助明細コード	内容
		(用法上の注意) ・本文行のみを別帳票で印字する。

基本契約メッセージ個別ルール

以下を基本契約業務のメッセージの個別ルールとする。

- ・「81」のみ利用可能とする。([1289]=81 以外は使用しない。)

①本文([1289]=81) についての取り扱い

- ・1 階層下に明細データを持たない（フラット）表現とする。

②明細データ属性コードと補助明細コードの組合せ

[1288]明細データ属性コード、[1289]補助明細コードの組合せによって明細行の種類が特定される。次表に、両者の組合せによる明細行の種類を示す。

表 B.X- 11 [1288]明細データ属性コードと[1289]補助明細コードの組合せによる明細行
種類の表現(約款等の場合)

明細行の種類		[1288]	[1289]	備考
本文	約款等の本文行	9	81	<ul style="list-style-type: none"> ・約款等の本文行を 80byte 毎で分割して[1428]本文 に収録する。 ・連続する複数行にわたって本文を記載する場合も[1289]補助明細コードは「81」に固定する。

[1288]明細データ属性コードおよび[1289]補助明細コードの組合せが上表のとき、使用可能な明細行のデータ項目は、[1428]本文のみとする。

3) 発注者の内部管理データ項目

[1201]明細番号

各社が定めた明細データの通し番号・分類記号。

[1278]明細番号 2

各社が定めた明細データの通し番号・分類記号その 2。

- ・発注者側が明細データに付与した番号、記号を使用する。

4) 明細の内容を表すデータ項目

[1428]本文

契約書の条項等を文面で記載する。

- ・契約書の条項等の文字列を 40 文字ごとで区切って格納する。

表 B.X- 12 基本的な明細データの構成(例)

[1200] 明細コード	[1288] 明細データ 属性コード	[1289] 補助明細 コード	[1428]本文
0001	9	81	第 1 条 甲が注文者との請負契約(以下、「元請契約」という)に係る工事(以下、「元請工
0002	9	81	事」という)を完成するために元請工事の一部を乙に発注し、乙が施工する個々の工事(以
0003	9	81	下、「個別工事」という)の請負契約(以下、「個別請負契約」という)及びその他甲乙間
0004	9	81	の取引(請負、委任、売買等の契約形態を問わない)に係る個々の契約(以下、個別請負契約
0005	9	81	と併せて「個別契約」という)は、性質に反しない限り又は特約のない限り、総て次葉以
0006	9	81	下の協力会社基本契約約款の定めに従うものとする。
0008	9	81	第 2 条 この基本契約の有効期間は、この基本契約の締結日から翌年 3 月 3 1 日までとする。
0009	9	81	但し、期間満了 3 0 日前までに、甲又は乙から文書による解約の申入れがないときは、自
0010	9	81	動的に更に 1 か年延長されるものとし、以後も同様とする。
0011	9	81	この基本契約の成立を証するため、本書 2 通を作成し、甲乙記名押印のうえ甲乙それを保
0012	9	81	有する。